

画像の認識・理解論文特集の発行にあたって



画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長 佐藤 宏介

本特集「画像の認識・理解」は、情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM) 研究会、本学会情報・システムソサイエティパターン認識・メディア理解 (PRMU) 研究専門委員会が共同で主催した第14回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2011: 2011年7月20～22日, 金沢市文化ホール) の開催に合わせて企画されたものである。

1992年に始まった画像の認識・理解シンポジウムは、現在、毎年7月下旬に開催され、関連分野の研究者にとって夏休み前の重要なイベントとして定着している。MIRU2011 (<http://cvim.ipsj.or.jp/miru2011/>) においても255編を超える論文投稿とともに、549名を超える研究者が一堂に会した。最優秀論文の選考対象となるセッションでは、ロングオーラル発表の査読付き論文への投稿を、MIRU長尾賞を含む各章への自己推薦応募と考えることとし、投稿者には論文の新規性や有用性をアピールする自己推薦文を添付させることで査読及び賞選定の助けとした。このため、より少数の有力な論文がしのぎを削る場となった。

本特集では、例年と同じく、MIRU2011で発表された優秀な研究成果を論文として投稿して頂くよう促すとともに、画像の認識・理解に関わる新規の投稿も受け付けた。その結果、22編の投稿論文があり、慎重かつ厳正な審査を行い、11編の論文を採録とした。このうち、MIRU2011優秀論文セッションの発表をもとにした3編は、「第14回画像の認識・理解シンポジウム推薦論文」として誌面上に明記した。ただし、査読のプ

ロセス、採否判定基準は、全ての投稿論文において同一である。本特集に掲載された論文が、これから多くの研究者によって読まれ、本分野の更なる発展に寄与することを確信している。

本特集は、東日本大震災・大津波により研究現場が被災されその復旧に身を砕いておられる中、また被災地でなくても節電対応で実験が満足に行えない状況の中での論文募集となった。いろいろな懸念がある中、困難に立ち向かう高き志を抱きつつ平常の活動を継続することこそが復興と考え、例年どおり募集すべきと本特集編集委員会をはじめ関係者全員が意見を一つにした。

最後に、優れた研究成果と投稿して下さった著者の方々、投稿論文を丁寧に閲読して頂いた査読委員の方々、査読結果を踏まえて厳正な審査と著者への適切なフィードバックをして頂いた編集委員の方々、更に、編集委員会実務の円滑な進行に尽力頂いた編集幹事の北原格氏と大塚和弘氏、岩井儀雄氏、並びに前和文論文誌D編集委員長の杉本晃宏氏、煩雑な事務作業に御協力頂いた学会事務局の皆さんに心よりお礼申し上げます。

佐藤 宏介 (正員) 1983阪大・基礎工・制御卒。1986同大学院物理系専攻博士課程中退。1986同助手。1988米国カーネギーメロン大学客員研究員。現在、阪大大学院基礎工学研究科教授。工博。情報処理学会、VR学会、情報考古学会、IEEE各会員。

画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長	佐藤 宏介
幹事	岩井 儀雄・大塚 和弘・北原 格
委員	青木 義満・石川 博・岩下 友美・岩村 雅一
	大町 真一郎・岡部 孝弘・神原 誠之・木村 昭悟
	酒井 智弥・佐藤 智和・高橋 友和・長原 一
	新田 直子・増田 健・柳井 啓司